

1.2.4 研究活動と研究環境（神学部・神学研究科 共通）.....

1.2.4.1 研究環境

【評価項目 9-1-3】 研究上の成果の公表、発信、受信等

（選択要素）研究論文・研究成果の公表を支援する措置の適切性

（選択要素）国内外の大学や研究機関の研究成果を発信・受信する条件の整備状況

【評価項目 9-1-4】 倫理面からの研究条件の整備

（選択要素）倫理面から実験・研究の自制が求められている活動・行為に対する学内の規制システムの適切性

（選択要素）医療や動物実験のあり方を倫理面から担保することを目的とする学内的な審議機関の開設・運営状況の適切性

<2003年度に設定した目標>

1. 研究業績データベースのタイムリーな情報登録と公開を目指す。
2. 紀要『神学研究』の新たな利用方法を検討する。
3. 上記項目を検討・推進するため、2005年度より研究推進担当の教員を設ける。

（現状の説明）

現在、研究論文や研究成果は、たとえば以下のような方法で発信されている。

1. 関西学院大学研究業績データベース

単年度の成果を「論文」「講演」「学会報告」などのカテゴリに分け、教員各自がデータベースに登録している。さらにこのデータベースはウェブ上に公開され、広く発信されている（<http://www.kwansei.info/src/>）。

2. 『神学研究』

神学部の紀要であり、年1回発行されている。学外機関を含め、広く頒布されている。さらに神学部ホームページ（<http://www.kwansei.ac.jp/theology/>）でも目次を公開しているほか、国立情報学研究所が運営する論文情報データベース「CiNii」にも登録し、ウェブ上でコンテンツを公開している。また発行母体である「神学研究会」は神学部の教員をはじめとして、会の趣旨に賛同し会費を納める者で構成されるが、学外からの講師を招くなどし、新しい研究成果を取り入れる場ともなっている。

3. 学内外の宗教活動

たとえば私的な教会活動であっても、神学部の教員にとっては説教や講演を通じて神学研究の成果を発信し続ける場ともなっており、大いに公的な貢献をもたらしている。このような活動は、ポスターやビラとして広く広報されており、同時に教員の成果を学生へ発表する場ともなっている。

（点検・評価の結果）

1. 関西学院大学研究業績データベース

近年、教員の意識は高まりつつあるが、いまだ研究成果の登録にあまり興味を示さない教員もある。論文や講演だけでなく、雑誌の寄稿や教会活動も含めて、さまざまな成

果をタイムリーに登録し、公開していくことが重要であるということを、改めてすべての教員へ訴えていくことが必要である。

2. 『神学研究』

例年、発行部数は500部であるが、学内外の機関に広く頒布され公開されている点は評価できる。

今後はこの成果を、学部・研究科学生へ研究演習や講義の場で広報し、あるいは研究指導や講義の教材として生かしていくなどの新たな利用法を考えてもよい。

3. 学内外の宗教活動

学内外の教会活動における講演や説教を通じ、広く学外の人々、あるいは伝道者を目指す学生へ実践的に情報を発信しているという点において大いに評価できる。

(改善の具体的方策)

1. 関西学院大学研究業績データベースについては、継続的に説明会を開催し、その重要性を訴える場を設ける。
2. 『神学研究』は、単に発行するだけに留まらず、その成果利用の新たな方法を模索する。
3. 以上のような事項を検討・実施するため、神学部内に研究推進担当の教員を設ける。

1.2.4.2 研究活動

【評価項目 9-2-1】 研究活動

(必須要素) 論文等研究成果の発表状況

(選択要素) 国内外の学会での活動状況

(選択要素) 当該大学院・研究科として特筆すべき研究分野での研究活動状況

(選択要素) 研究助成を得て行われる研究プログラムの展開状況

<2003年度に設定した目標>

1. 神学部・神学研究科全体での研究成果の現状把握と情報整理。
2. 不足している研究領域、また成果の見込みのある研究領域を検討する。
3. 上記施策を推進するために、研究推進担当の教員を置く。

(現状の説明)

神学部の教員による研究活動は、主として以下の5つの領域において行っている。

1. 国際的な領域

2002年度～2004年度の主な活動は以下のとおりである。

2002年度：5th Asia-Pacific Hospice Palliative care Conference (大阪)

招待講演

The 20th International Conference on Death and Bereavement

(カナダ・オンタリオ) 研究発表

古代キリスト教研究会・アウグスティヌス国際学会 (ローマ) 講演